

33. ^{67}Ga -citrate を用いた肺疾患の検索

岡山大学医学部 平木内科

岩崎 一郎 有森 茂 長谷川 真
吉岡 博夫

^{67}Ga -citrate の腫瘍親和性は、1969年 Edwards & Hayes によって臨床的に scanning に応用されるに至った。私達はこの ^{67}Ga -citrate を肝腫瘍を中心とした各種肺疾患患者に静注して、 ^{67}Ga -citrate の肺内分布を検索した。肺癌では従来の MAA 法による場合と比較しても明らかなごとく、腫瘍部分が陽性像として描出され、腫瘍そのものの形態、大きさを推察することができた。しかしながら肺癌にみられると同様の陽性像は肝膿瘍患者においてもえられ、ことに珪肺症例では著明な瀰漫性の陽性像が出現した。このように肺腫瘍以外の疾患で陽性像がえられることは肺腫瘍確認診断のために本法を更に改良考察する必要があると考えられた。珪肺症でえられた陽性像については、 ^{67}Ga -citrate の珪肺病変部との親和性と、腫瘍組織への親和性を比較検討する必要がある。このような意味で初歩的実験として dd 系マウスを用いた実験を行なった。無処置正常 dd 系マウスの尾静脈より ^{67}Ga -citrate 10 μCi を静注、経時的に採血する一方、6, 24, 48, 72時間で屠殺した。こうして血中消失曲線と脳、胸腺、肺、心、肝、脾、腎、胃、小腸、大腸、骨(髄)、睪丸、筋肉、尾について経時的に臓器摂取率を検討した。

その結果、正常マウスでは肝>腸>骨へ最高に摂取されていた。一方、腹水型エールリッヒ腫瘍細胞を脊部皮内に移植して腫瘍を形成せしめた14日目のマウスで同様の検討を行なうと、肝臓への親和性(摂取)が肝、腸よりも大であった。即ち腫瘍および肝への摂取は蛋白合成への転入を示すと考えられ、肺疾患での非特異的ともみられる ^{67}Ga -citrate 陽性像は蛋白合成亢進という面から説明されるものではないかと考えられる。

34. ^{67}Ga -citrate による肺のザルコイドーシスのシンチグラム

東京大学医学部 安河内 浩 宮前 達也

^{67}Ga -citrate による各種腫瘍のシンチグラムについては、特にわが国で多くの症例が報告されている。

その腫瘍親和性、放射線治療による影響などの他に、急性期の炎症における沈着も報告されている。現在はこれら症例の積み重ねの時期であり、今後それらの症例の分類などにより、 ^{67}Ga -citrate の沈着機転は漸時解明さ

れて行くものと思われる。

われわれは同 RI が、肺のザルコイドーシスにおいて著明な肺門部沈着を認めたので、これについて症例報告をする。

これについてはいくつかの施設に検討を依頼し、いづれもわれわれと同様特異な肺門部沈着所見をえているので、今後潜伏形のザルコイドーシスというような新しい概念や、また一方では ^{67}Ga -citrate の特定組織または反応への沈着の解明などの糸口となるのではないかと考えている。

(症例1) 46♀, 2年前半身のシビレ感を主訴に精査、脳の動脈瘤を疑われている。

本年3月失神発作あり、入院した。その際胸部X線写真において肺門部の陰影を発見された。

(症例2) 40♂, 本年3月健康診断で胸部X線写真の肺門部陰影を指摘された。

(症例3) 23♀, 昨年4月胸部X線写真で肺門部の陰影を指摘された。

35. 各種リンパ腺腫を伴う疾患における

 ^{67}Ga -citrate リンパ腺シンチグラムの検討

京都大学医学部 第1講座

刈米 重夫 三木 昌宏 脇坂 行一

Edwards らがはじめて ^{67}Ga -citrate の静脈内投与により Hodgkin 氏病やリンパ腺腫のシンチグラムのえられることを明かにして以来、 ^{67}Ga は種々の悪性腫瘍の検出に用いられはじめた。

われわれは種々のリンパ腺腫を伴う疾患に ^{67}Ga -citrate を投与したのち、リンパ腺のシンチグラムないしシンチカメラ像を撮り、リンパ腺像の出現の条件およびその診断的価値について検討した。

すなわち ^{67}Ga -citrate 0.5~1 mCi を静脈内投与したのち約24, 48, 72, 96時間後にリンパ腺をスキャンして、リンパ腺像の出現状況を検討した。およそ48~72時間後がもっとも条件がよいようである。

Hodgkin 氏病、リンパ肉腫症、その他の悪性リンパ腫、炎症性のリンパ腺腫等に ^{67}Ga を投与し、そのリンパ腺陽性像の出現の有無を検討した。疾患による成功例の頻度については、なんともいえないが、同一疾患でも成功する場合もしない場合もある。

一般に放射線照射ないし薬物療法を行っていない、新鮮な例の方が陽性出現率が高い。

頸部、腋窩等皮膚表面に近いリンパ腺の方が鮮明に描